

| | | |
|--|---------------------------------|--|
| 東海市立船島小学校 住 所 東海市富木島町船島 1 の 1 電話番号 052-604-3536 児童/生徒 3 1 6 名 校長名 石原 和彦 ｸﾗｽ14学級(内 特支2) | 教育目標 輝く学校づくり 地域の特色 | ・心や体をきたえ、たくましく生きる子どもの育成 ・人とふれ合い 自然とふれ合い 豊かな心を養おう ・古くからある姫島地区と、比較的新しい伏見地区に中央町の一部、上瀬木、東広、藤島などの団地がある。コミュニティ活動もさかんで、地域の結びつきは比較的強い。 |
|--|---------------------------------|--|

| 中期目標 | 今年度の目標 | 評価方法 (アンケート項目) | 結果の分析 | 課題と対応策 | 学校関係者評価 【実施日】平成27年3月6日 | 来年度の改善策 (誰が何をどうする) |
|-------------------|--|--|---|---|--|---|
| 知 進んで学ぶ | 「分かる授業」「楽しい授業」を目指し、児童の達成感と探求心を高め学びの意欲を向上させる。 | 学校評価アンケート 児童 18 内容が分かる、19 楽しい、20 先生は熱心に教えてくれる | (評価A)「内容が分かる」、「楽しい」、「熱心に教えてくれる」のどの項目も昨年度からさらに向上している。「凡事徹底・学力向上」をスローガンに掲げ、教育活動に邁進した成果と考えられる。 | 学校評価アンケート教師 25 学力が定着しているは、よく当てはまるが 6.3%しかない。これを向上させるため現職教育を充実させさらに学力向上に取り組む。 | ・算数の少人数など、個別の指導が充実している。 ・宿題以外はやらないということがあるので、学習に対する意欲をさらに高めてほしい。 ・ゲーム性などを持たせた指導もよいのではないかと。 | ・教務主任、現職主任を中心に、現職教育の充実をはかる。 ・校長の指導の下、“凡事徹底・学力向上”を全職員が意識して取り組めるようにする。 |
| | 問題解決に努力する | 学習規律を定着させ、集中して学習に取り組ませ、基礎基本の定着、学力向上につなげる。(凡事徹底、学力向上) | (評価B)「授業をしんげんに」は昨年度よりやや後退したが、他の項目は向上している。また、「家で勉強している」という項目も向上が見られる。現職教育の取り組みで、学習規律に支えられた学力向上に必取り組んだ結果と考える。 | 学習規律は改善し、学力も向上しつつある。さらに学習規律が当たり前のものとなり、家庭学習も含めて学習内容を濃くすることで、基礎基本の定着を進めていく。 | ・授業中の学習態度は以前よりも向上している。 ・長期休業明けのテストなど、学校全体で学力を向上させようという機運が見られる。 ・授業中の子どもの姿勢をよくしたい。 ・厳しい指導の中にも温かさが必要。 | ・学習規律の振り返りアンケートを継続して行い、児童の意識化をはかる。 ・今年度から始めた長期休業明けの課題テストを継続し、結果を分析、補充することで基礎基本の定着をはかる。 |
| 徳 あいさつ | 異学年交流を進め、相手の立場を思いやり、お互いの言動を尊重しあえる心を育てる。 | 学校行事や、ふれあいグループでの活動の様子、子どもたちの反省をとらえ、心の育ちを確かめる。 | (評価A)七夕集会や運動会、学習発表会など、互いを認め合う様子が本年度も多く見られた。また、ふれあいグループの活動では高学年のリーダーシップ、低学年のフォローシップが見られた。 | 今年度6年生の意識が高かった。それを見習うよう、5年生に最高学年としての意識をしっかりとめさせることが必要である。 | ・地域でのあいさつができるようになってきたが、時々声をかけても返ってこないときがある。 ・あいさつ運動などの取り組みを進めるとよい。 | ・ふれあいグループの活動を継続、充実させる。 ・高学年のリーダー指導を充実させる。 ・行事の前や朝会など、機会を捉えて、教師が思いを語り、心の育ちを促す。 |
| | 思いやり | 心のつながりを大切にして、温かい人間関係の確立をはかる。 | (評価B)学校評価アンケートの結果は、いじめ 13.5%、そうじ 6.2%、あいさつ 6.9%に向上している。特にそうじは本年度から黙々清掃に取り組んでおり、協力しながら清掃活動に取り組む様子が見られた。 | いじめは見られないが、子ども同士の小さな争いがないわけではない。常に児童の様子に気を配り、黙々清掃などまわりを思いやって取り組む活動を継続させる。 | ・ぎすぎすした狡猾な感じのいじめは見られない。 ・異学年交流が進んでいてよい。 ・特別支援に対して偏見をもつ子がいる。正しく教えてやりたい。 ・募金活動などは、その意義を伝えてやってほしい。 | ・生活指導主任を中心に児童の様子を捉え、職員間で情報を共有して、いじめ等の未然防止に努める。 ・黙々清掃などやるべきことをやるを徹底し(凡事徹底)、児童をほめて伸ばす場とする。 |
| 体 生活習慣の確立 | 「早寝・早起き・朝ごはん」「歯磨き」の習慣に努め、健康な生活が送れるようにする。 | 学期ごとに「せいかつ調べ」を行い、生活習慣が確立されているかどうかを分析する。 | (評価B)「せいかつ調べ」の結果、朝ご飯についてはほとんどの児童が毎日食べているが、排便と早寝早起きにまだ課題が残る結果となった。 | 生活習慣については家庭の協力が必要不可欠である。家庭への情報提供をさらに充実させながら健康な生活を目指す。 | ・家庭の子育てにつきる。 ・働いているお母さんが多いので、子どもが帰宅しても迎える人がいないことが心配。 | ・養護教諭を中心に、引き続き「せいかつ調べ」を継続して、意識を高める。 ・学校保健委員会への保護者の参加を増やす。 |
| | 進んで体力づくり | 運動量の確保に努め、健康で力強い体づくりにつなげる。 | (評価B)期間を設定し縄跳びやマラソンを行う機会を設け、どの子も意欲的に取り組むことができた。ただ、天候不良で期間が短くなるがあった。 | 縄跳びもマラソンも児童が目標を意識できると継続もできる。子どもたちが興味をもって取り組める工夫を進める。 | ・家ではゲーム機での遊びが多いので、学校で運動する機会があつてよい。 ・体力作りの活動にゲーム性や競争意識を持たせるとより積極性が増す。 | ・体育主任が中心となり、縄跳びやマラソンなど、マンネリ化しないように工夫していく。 ・児童のがんばりを認める場を設定する。 |
| 地域連携 誇ってもらえる学校 | 学校支援ボランティアを軸に地域連携を深める。特にフナビオ会への子どもたちの参加を増やす。 | 学校評価アンケート(地域) 月に一度のフナビオ会への参加人数から評価する | (評価A)アンケートの結果、よい学校と思う 78.9%と概ね肯定的にとらえていただいている。本年度より学校支援協議会が発足し、除草や図書修理などのボランティア活動も協力していただいている。フナビオ会に参加した子どもの数は、現在まで延べ 79 名で昨年度比較 3 倍になっている。 | 特にフナビオ会では参加募集、活動内容を情報発信することで活性化が図られた。他の学校支援についても積極的に情報発信することで、地域の方が学校に来ていただける機会を設定していく。 | ・コミュニティで若い人の応援を頼んでいきたい。 ・フナビオの活動を知らない家庭もまだ多い。学校公開や運動会などの機会も生かして多くの人を取り込んでいきたい。 ・地域の人と子どもたちの接点として大切にしていきたい。 | ・校務主任を中心に、教頭も窓口となり学校支援ボランティアを活性化し、地域に開かれた学校にしていく。 ・情報発信を効果的に行い、地域、保護者の理解を得ながら地域連携がさらに深まるようにする。 |